

## 第6回 在宅医療・介護連携推進のための多職種研修会

# 在宅医療における訪問歯科診療 webセミナーを開催しました

2021年2月24日(wed)

第6回在宅医療・介護連携推進のための多職種研修会は、『在宅医療における訪問歯科診療～苫小牧での現状と医科・歯科・多職種連携に向けて～』をテーマに、57件の医療・介護関係の個人・機関の接続参加を頂き、学び多きセミナーとなりました。

苫小牧市・とまこまい医療介護連携センターが市民向けリーフレット「在宅医療をご存知です



か?」を発行し、その一環として訪問歯科診療の苫小牧の現状を知り、医科・歯科・多職種で口腔の健康と全身の健康を意識した在宅医療に取り組むきっかけにしたいと考え企画しました。苫小牧市医師会豊田副会長を座長に、訪問歯科診療を知ることや苫小牧の現状を苫小牧歯科医師会阿部会長から、先行地域の取り組みとして札幌市医師会東区支部長三木先生、札幌歯科医師会地域医療係木本先生を向かえ、ご講演をいただきました。

阿部会長からは、要介護高齢者の多くが歯科的な問題を抱えているにもかかわらず歯科受診がされない。口腔機能の維持管理は、食べるという機能ばかりでなく、生きる力に繋がりに歯科受診が困難な場合であっても治療を諦めないことが重要として、訪問歯科診療について解説されました。

対象者の条件、治療内容、高齢者の歯科治療や口腔内の特徴、口腔ケアの説明をされ、口腔内の不具合は食事の意欲の低下につながり、要介護高齢者における口腔清掃状態の悪化は、誤嚥性肺炎の原因にもなること、咀嚼・嚥下障害へは機能低下の早期発見と対応が必要と話されました。実際に、安全に配慮した診療時の注意点や内科疾患への配慮、姿勢確保やポータブル治療器具の紹介がなされ、訪問歯科診療のイメージがつかめました。今後に向けて、介護に携わる多職種の方に訪問歯科診療を理解してもらうことや連携の大切さを、医科の医師には、介護保険の主治医意見書で、訪問歯科診療のチェックが低いことから定期的な歯科受診やかかりつけ歯科医師がい



るかの確認や義歯や口の中で何か気になることがあれば、できるだけ介護度が低いうちに歯科への受診を勧めてほしいと話され、また、訪問歯科診療の依頼方法を紹介し、最後に食べることは生きていくうえで非常に大切なこととご講演をいただきました。



三木先生からは、札幌市東区の医療介護連携の視点から、東区地域ケア連絡協議会（在宅医療、医療と介護の連携を面として支える活動）と東区医療介護ネットワーク協議会（急性期・回復期、慢性期病院から地域へと立体的な連携活動）を組み合わせた面の連携から、立体的な連携の構築を進めたこと。さらに、今後の超高齢化時代に向けて、認知症にはさっぽろ北部認知症連携の会、口腔フレイルにはさっぽろ北部摂食嚥下ねっと、フレイルにはさっぽろ北部骨粗しょう症リエゾンサービス…と様々な課題に対する

連携組織を構築したこと。チームで、議論をすればするほど課題が増えていく状態、そんな様子のスライドや東区医療介護ネットワーク協議会のホームページを紹介。また、実践的にホームページを活用している状況も話されました。先生自身も日常の診療において、歯科治療や口腔ケアを意識し、札幌歯科医師会の木本先生と連絡を取り合って連携している状況などご講演をいただきました

木本先生からは、札幌歯科医師会道央圏域在宅歯科医療連携室へ寄せられる相談と口腔に関する一般住民やケアマネ向けセミナー実施状況の報告。さっぽろ北部摂食嚥下ねっとへは医師・歯科医師・MSW・ST・栄養士・歯科衛生士が参加し、メリットとしては、それぞれが現在、力を入れている取り組みが把握でき、他職種に相談できること。患者さんの状況に応じて、適した対応が可能な機関の予想がつくこと。そこで、多職種の中で歯科がやらなければならない事が検討できることを示していました。今後は、口から食べられるスタートラインに立っているか、食べて大丈夫かの視点を更なる連携のきっかけとして進めていきたいと話されました。高齢者の口腔内の普段出会わなかったり、日常気づかず口腔と結びつかず見過ごしてしまう貴重な症例を通じ解りやすく解説し、ベット上の生活や終末期になった時に最期の生きがいは全部口に繋がっているとご講演をいただきました。



口から食べられるスタートラインに立っているか、食べて大丈夫かの視点を更なる連携のきっかけとして進めていきたいと話されました。高齢者の口腔内の普段出会わなかったり、日常気づかず口腔と結びつかず見過ごしてしまう貴重な症例を通じ解りやすく解説し、ベット上の生活や終末期になった時に最期の生きがいは全部口に繋がっているとご講演をいただきました。

豊田座長より「歯科の訪問診療は、今後益々必要となっていく分野と思われ、医師会・歯科医師会・介護・行政を含め、多職種が連携してこの地域の在宅医療を盛り上げていきましょう。」と皆さまに協力を呼びかけました。